



We Lead, We Find, You Win.™

HDS-LIVE 7/ 9/ 12/ 16

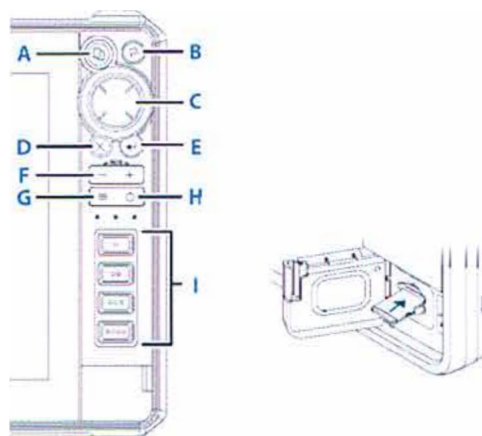
共通日本語解説書



目 次

キー操作とカードリーダー	2
基本操作	4
カスタマイズ	5
チャート	6
航法指示	9
ソナー	10
ストラクチャースキャン	11
仕様	12
取り付けとアクセサリー	13
データ管理/ハードリセット	16
Wifiの活用	17
C-MAP ・ ジェネシス	18
トラブルシューティング	21

HDS-LIVE 7/ 9/12/16簡単操作ガイド



キー操作とカードリーダー

マルチタッチスクリーン

ページ毎に必要なキーやカーソルを表示し、ワンタッチ、ホールド、ドラッグによって速やかな入力が可能となります。(★室内でバッテリーでの運用では反応しません)

★タッチ感度の調整は、ウェイポイントキーを押したまま電源を起動すると、自動調整モードで起動し、最適感度にセットされます。

A ページキー

ワンタッチでホームページが開きます。繰り返してタッチすると、次々にページがシフトします。ホールドすると最後に使ったページにジャンプします。

★パワーキーと同時に押すことで、表示されている画面のスクリーンショットが「ファイル」内の「マイファイル」に保存されます。カードにコピーして取り出せます。

B ウェイポイントキー

一度押しで新規ウェイポイントのダイアログが開きます。早い2度押しでポイントがクイックセーブされます。長押しでは「検索メニュー」が開きます。

C カーソルキー

上下左右の矢印を操作して、画面上のカーソルを移動したり、各種項目の選択に用います。

D EXIT (X)キー

ダイアログの終了、以前の画面に戻る、画面上からカーソルを消去するのに用います。

E エンターキー

設定を決定したり、保存するときに用います。

F ズームアウト/ズームインキー(落水者救助モード)

通常はチャート画面や魚探画面のズームキーとして使われます。落水事故が発生したときは、+、-の同時押しで、落水地点の方向と距離を示す救助モードになります。

G メニューキー

一度押すと画面の内容に応じたメニューが開き、長押しでメニューの表示/非表示をコントロールします。早い2度押しで設定メニュー開きます。

H パワーキー

一度押しで各種ジャンプ先を表示する「システムコントロール」が開きます。素早く数回押すことで画面の輝度調整が可能です。長押しで電源のオン/オフを行います。

I クイックアクセスキー(12/16インチモデル)

使用頻度の高い項目をプリセットすることにより、ワンタッチでジャンプします。

マイクロ SDカードリーダー

カードの接点が下奥となるように挿入し、ロックされるまで押し込んで下さい。



ページキーを押すとホームページが開きます

A 設定アイコン

各種の設定を行うためにダイアログを呼び出したり、システムの構成を行います。

B アプリケーション

基本ページが表示されていて、ワンタッチで全画面表示にジャンプします。長押しすると、分割画面のオプションが選択できます。

C クローズボタン

ワンタッチで以前のページにジャンプします。

D お気に入り

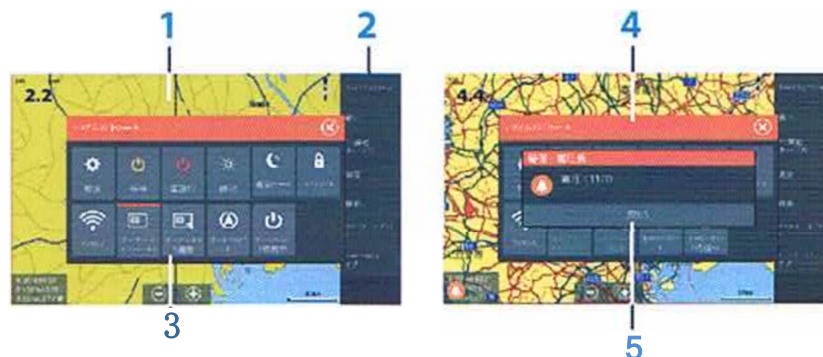
お気に入りの分割画面を選択したり、カスタマイズにより独自に構成した画面を追加できます。下から2個目のアイコンにタッチしてから、必要なページをオレンジ枠内にドラッグして表示位置を調整後に「保存」にタッチします。

E ツールバー

各種の項目にアクセスするアイコンとファイル管理用の「ストレージ」を備えています。

アプリケーションページ

システムに直結するそれぞれのアプリケーションが、パネル上に表示されます。アプリケーションは、全画面表示と、他のアプリケーションと組み合わせたマルチ画面表示が設定できます。



全てのページは、メニューボタンを押してホームページから入ることができます。

1 アプリケーションパネル

2 メニュー

3 システムコントロールダイアログ

パワーキーにワンタッチするだけでシステムコントロールのダイアログが開きます。

4 ダイアログ

ユーザーへの案内や、ユーザーからの入力を受け付けます。

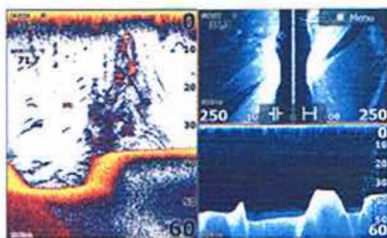
5 アラームメッセージ

システムにエラーが生じたときや、危険な状態と判断したとき、その内容を表示します。

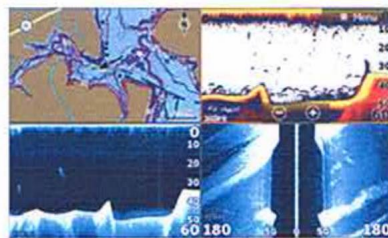
スプリットページ



2画面表示



3画面表示



4画面表示

7/9インチモデルは最大で4画面の分割表示ができます。それぞれのパネルサイズは、システムコントロールのダイアログから自由に調整可能です。(12/16インチモデルは最大6分割)

クイックスプリットページ

ページキーを押してから、各種の全画面ページを選択することができます。また、プリセットされた分割画面を利用するには、全画面ボタンを長押しすると分割表示のオプションが現れるので、この中から選択することができます。

お気に入りのページ

クイックスプリットページは、編集や消去などの変更を受け付けませんが、「お気に入り」では12種類のページから目的に合ったページを選択し、自由に変更することができます。

サードパーティー機器への接続

HDS LIVEは、将来的に多くのメーカーが優れた商品やアプリケーションを開発して参入できるように門戸を開いています。通常NMEA2000で接続する機器は自動認識しますが、ソフトが対応していない場合は、「システム」の「アドバンス」から設定します。

パワーポール アンカー/マーキュリーエンジンモニター

ブルートゥース内蔵のパワーポールとHDS LIVEをペアリンクすると、システムコントロールのダイアログにパワーポールのアイコンが表示され、エリート画面からコントロールができるようになります。

マーキュリー ベッセルビュー7、あるいはベッセルビュー4ゲートウェイが認識されると、ツールメニューに自動的にアイコンが追加されます。

基本操作

システムコントロール

システムコントロールダイアログで基本的なシステムの設定を行います。パワーキーにワンタッチすることで得られるダイアログは、表示中のパネルに適応するアイコンが並び、例えばスプリット画面を表示しているときのみ「分割の調整」アイコンが登場します。



機能を有効にする

アイコンにタッチすることで機能が選択され、オレンジのマーカーが有効であることを表示します。例えば、画面上に必要なデータをオーバーレイする場合は、上図のように「データのオーバーレイ」を有効にしておく必要があります。通常はパワーキーの長押しで電源をオフにしますが、システムコントロールの「電源オフ」からパワーダウンすることもできます。

「待機」は魚探機能とバックライトの電源を落とし、バッテリーの消耗を防ぎます。GPSは作動しているので、パワーキーのワンタッチで動作を復帰できます。

「タッチロック」は大雨やしぶきなどで誤動作する恐れがある場合に、キーパッド操作のみの入力に切り替えます。作動中に画面の清掃を行う場合にも便利な機能です。パワーキーのワンタッチで復帰します。

カーソルの活用

カーソルは距離の測定、位置の登録、項目の選択に用います。通常は隠れていて、画面をタッチするか、カーソルキーを操作すると現れます。カーソルが有効なときは、位置を示すウインドウが表示されます。Xアイコン、あるいは「カーソルをクリア」にタッチするとカーソルを消去することができます。

メニューの「ナビ開始 カーソル」にタッチすると、カーソルで指定された場所に向かって、航法指示を表示させることができます。

カーソルの補助機能

目的地を正確に設定したり、魚探画面を巻き戻して特定の魚にマークするとき、カーソルの交点が指に隠れて見えません。このような場合、3秒間タッチするとカーソルがオフセットされて位置を決めやすくなります。

距離の測定

チャート画面の任意の位置にタッチすると、自船の位置からカーソルの交点までの距離が画面左下に表示されます。この状態でメニューの「測定」にタッチするとグレー(始点)とブルー(終点)のバルーンを移動してチャート上の2点間の距離を測定できます。

落水者救出モード

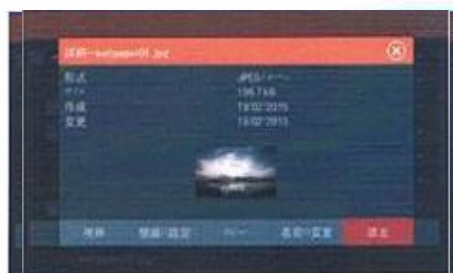
落水事故などの緊急事態に対応するため、どのモードで使用しているときでもズームキーのプラスとマイナスを同時に押すことで直ちに落水者救出モードに切り替わります。ここで作られたウェイポイントはMan Overboardを省略したMOBとして登録されます。メニューキーから

「舵」にタッチすると落水地点および直線距離を表示します。MOBを消去するときはMOBにカーソルを合わせると、メニューバーに「MOBウェイポイント」の項目が追加されるので、これを開いて「消去」を選択して下さい。

カスタマイズ

壁紙

右上のメニューキーを押した後、「ストレージ」、「マイファイル」、[Wall Paper] の順にタッチすると任意の画像をホームページの壁紙として設定することができます。



分割の調整

分割画面が選択されているとき、分割比を自由にカスタマイズすることができます。パワーキーにワンタッチすると「分割の調整」アイコンが表示されます。

データーのオーバーレイ

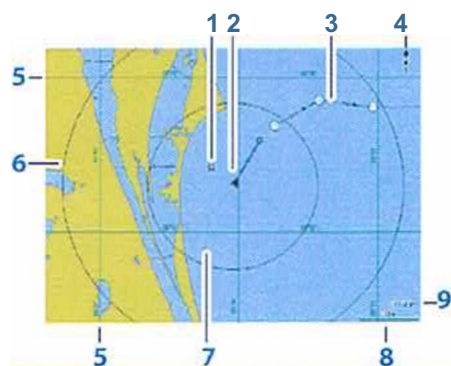
チャート画面に速度を追加したり、ソナー画面に電圧を表示させたい場合、パワーキーにワンタッチした後、システムコントロールの「オーバーレイの編集」より、所要のデーターを追加することができます。「追加」にタッチした後、リストから表示したい項目を選んでチェックを入れて下さい。パネル上に追加項目が青枠付で表示されたら、ズームキーを使ってサイズを調整したり、パネル上でドラッグして表示位置を変更できます。なお、アナログメーターを希望される場合は、「環境設定」より「型式アナログ」を選んで下さい。最後に「保存」にタッチして確定して下さい。

お気に入りページの追加



お気に入りのアイコンにタッチすると「ページ編染」のダイアログが開きます。左端にあるパネルのリストから構成したい項目をプレビュー領域に順次ドラッグして下さい。構成が確定したら「保存」にタッチして確定して下さい。

チャート



Key	Description
1	ウェイポイント
2	線首延長線付船舶
3	ルート
4	北方表示線
5	グリッドライン
6	範囲門
7	トレイル
8	範囲門のスケール
9	範囲門の間隔

チャートの機能は、自船の位置や陸地の情報、チャート上のその他の目標物を表示すると同時に、航海の計画やウェイポイントの登録、ストラクチャスキャンのサイドイメージを上書きするなど、多くの機能を利用できます。

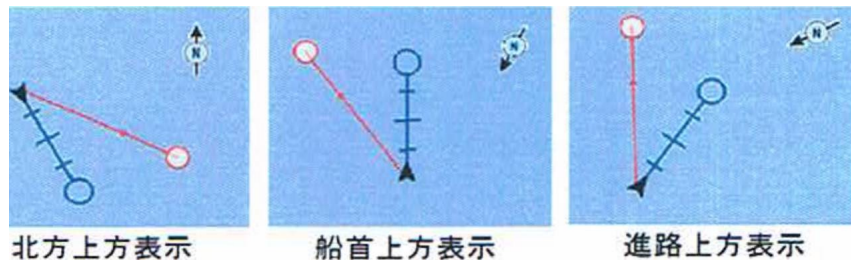
チャートデータ

HDS LIVEはご購入時に精密湖岸線「全国湖沼図AT5Jまたは、「ノーティックパス簡易版」が付属します。その他、目的に応じて、魚礁入り航海図「C-MAP」、「ナビオニクスJ」「テラ海底地形ファイル」「ニューペック海図カード」が利用できます。なお、釣りに使用する場合は、魚礁や根の形状を正確に認識するために自作のマップが必要となります。高度なオプションが利用可能な「リーフマスター・プロ J」と、操作が簡単な「インサイトジェネシス」の2種類を用意しています。「ナビオニクスJと「その他の地図」ではフォーマットが異なるため、メニューの「追加のオプション」で切り替える必要があります。

2種類のチャート表示モード

通常はGPSを補足している場合、チャート画面の中央に自船の位置を示す矢印が表示され、ボートの移動と共に地図全体がスライドします。一方、チャート画面をドラッグしたりカーソルキーを操作すると、画面上にカーソルが現れて、自船の位置を示す矢印は固定された地図の中を走り回ることになります。自船を中心に戻すときは、メニューから「カーソルをクリアー」を選択して下さい。

チャートの表示方向



メニューの「チャートオプション」を開くと「地図の表示方向」が設定できます。さらにメニューの「前方重視」にチェックを付けると、進行方向が開けるように矢印の位置がオフセットされて見やすくなります。

ルートの作成

画面上にカーソルがある状態で、メニューの「新しい」を選択すると「新しいルート」のアイコンが表示されます。変針地点や通過したい位置に順次タッチしてルートを作成することができます。ルートが完成したら「保存」にタッチして下さい。

この機能を利用して、チャート画面上に直線を引いたり作図することができます。

検索

チャート上にカーソルがあるときは、カーソルの交点より、カーソルがないときは自船の位置より各種項目の検索が開始されます。

チャートのオーバーレイ

メニューの「オーバーレイ」にタッチするとストラクチャスキャンのサイドイメージや、レーダーの画像を上書き表示することが可能です。例えば、メニューの「ストラクチャーオブ

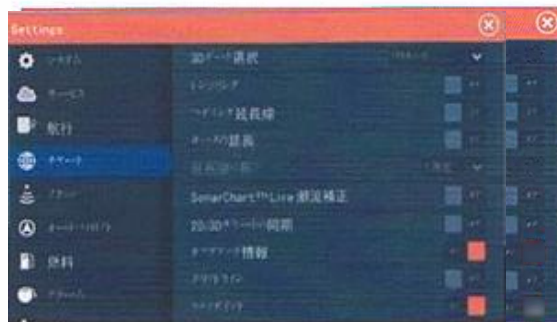
ション」を開くと、「透明度」の調整ができるので、水底の画像とチャートの情報を同時に読み取ることができて便利です。スロットにカードが挿入されている場合のみ「ジェネシスライブ」を選択することで、動的に等深線が作成されます。

C-MAPのタイドグラフ

C-MAPのMAX-N-WIDE以降では、1海里以上にズームインすると、検潮所を意味する丁マークが表示され、ここにカーソルを合わせてエンターキーを押すと潮汐表や潮流速度/方向を表示できます。

チャートの設定

メニューキーを押してから、「設定」、「チャート」の順にタッチすると「チャートの設定メニュー」が開きます。



3Dポート選択

3D表示の時、自船の位置を表すイラストを3種類の中から選べます。

ポート設定

喫水、船幅、全高を登録することで、オートルートが選定された場合に演算のデータとして利用されます。

範囲円

自船から目標物までの距離を知りたいとき、範囲円を表示させると目安になります。

ヘディング延長線

「船首方向の延長線」にチェックを付け、「延長線の長さ」で距離または到着予想時間から線の長さを決定します。実績ポイントに延長線を合わせてルアーをキャストしたり、COGに重なるように操舵することで目的地に最短時間で到着できます。

2D/3Dチャートの同期

2Dと3Dの地図が並べて表示されるとき、双方の位置をリンクして表示します。

ポップアップ情報

チャート上の項目を選択したときに、その内容をポップアップで表示させます。

グリッドライン

緯度経度を表すグリッドラインの表示をコントロールします。

チャートを隠します

Lowranceのチャートが選択されているときに、チャートを非表示とすることができます。

ウェイポイント、ルート、および航跡

メニューキーを押してから、「ウェイポイント」にタッチすると、ウェイポイント、ルート、および航跡の一覧表が開きます。



ウェイポイントは、チャート画面や、魚探画面、レーダー画面上にユーザーがマークした位置の情報で、魚探画面上でマークしたポイントは水深情報も付加されます。

ウェイポイントの保存

ウェイポイントはカーソルの交点にエントリーキーの2度押しで保存できます。また、ウェイポイントキーを1度押した後に、アイコンの種類や色を選択してから保存する方法も利用できます。

ウェイポイントの移動

以前にマークしたウェイポイントの位置を修正したいときは、そのウェイポイントにカーソルを合わせると、メニューバーに番号が表示されます。この番号にタッチしてから「移動」の項目を選択すると、新しいアイコンが二重に表示されます。これを希望する位置までドラッグして「移動の終了」にタッチして下さい。

ウェイポイントのアラーム設定

ウェイポイントの「編集」にタッチすると、警報半径を設定することができます。設定後はこのウェイポイントに所定の距離まで接近すると警報が発生します。

ルート

ルートとは一連のルートポイントで構成される道順で、危険を回避したり、ヨットレースで最短時間のコースを設定するときなどに用います。

既存のウェイポイントを利用してルートを作成

チャート画面から「新しい」、「新しいルート」の順にタッチします。最初にスタート地点とするウェイポイントを選び、I 唄に希望するウェイポイントにタッチしてルートを作成します。

最後に保存を押して完了します。

航跡

航跡とは、航行したラインを自動的に記録したものです。航跡を記録しておくで、視界不良の時に安全に帰港したり、トローリングの実績ラインを再度攻略できるなど、多くのメリットがあります。航跡は一定の打点数を超えると、古いものから上書きされますので、保存したい航跡は定期的にカードに出力されることをお勧めします。

ページキーを押してから「航跡」にタッチするとリストを表示できます。

航法指示

特定のウェイポイントや、カーソルの位置に向かって的確な操舵の指示を行ったり、指定されたルートに沿って正しく航行できるように指示します。オートパイロットの機能が装備されていれば潮流や風の影響などを補正して最短距離で航行できます。



メニューキーを押した後、「舵」を選択してから「ウェイポイントに向かってナビ開始」にタッチします。ウェイポイントを選択すると航法指示が始まるので、船首方向が目的地方位に一致するように操舵して下さい。

DTD : 目的地までの距離
SOG : 対地速度

XTE : 理想コースからの乖離
TTD : 予想所要時間

ソナー

ソナーの機能は、水中と水底の情報を取得して、魚の位置や水底のストラクチャーをディスプレイ上に表示することにあります

ズーム

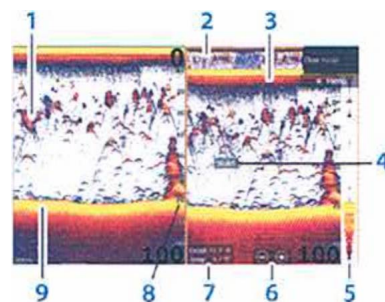
ソナー画像の拡大は、＋のズームキー、パネル上の＋にタッチする2種類の方法で、任意の倍率と なるようにズームすることができます。ズームレベルはパネルの左下に表示されます。ズーム中は自動的にボトムがパネル下方にキープされますが、意図的に実際より浅いレンジをセットすると、ボトムを表示できなくなります。

画面上にカーソルが置かれている場合は、交点を中心にズームされます。画面右側にはズームバーが表示され、どの部分が拡大されているかを知らせます。

カーソルの有効な利用

初めてのポイントでは、魚の位置を把握したり、理想的なアンカーポイントを決めるために

有望ポイントを含むエリアをジグザグに走行して魚探掛けします。メニューバーの「見る」にタッチしてから、「プレビュー」「常時」を選択するとパネル上方に魚探履歴が標示されます。沈船や魚礁の全体を確認したら、画面をドラッグして巻き戻します。魚やストラクチャーにタッチしてウェイポイントキーを2度押すと通し番号を付けてマーキングされ、チャート画面に切り替えると魚の位置が明確になります。マークされたポイントに向かって潮上から順次、仕掛けを投入したり、並んだ魚の延長線上にボートを移動してルアーを通すと一度のキャストで多くの魚にアピールすることができるため、確実に釣果が向上します。



Key	Description
1	フィッシュアーチ
2	魚探履歴
3	連続水温グラフ
4	デプスカーソル
5	A スコープ
6	ズームレンジボタン
7	カーソル位置の水深と水温
8	水深スケール
9	水底

ソナーの設定

レンジ自動

初期設定ではレンジが自動に設定され、画面下方に常にボトムを捕らえます。起伏の変化が激しい場所では、とても便利な機能ですが、水中のゴミが多いときや、温度層の境目、水生植物により極端に反射が弱いときなどボトムをロストしたり誤認識する場合があります。

水深が予測できるエリアであれば、手動設定の方が安定します。

例えば、振動子の能力をはるかに超えた水深で、特定のレンジを狙ったトローリングをするときなどは、「アドバンス」から「マニュアルモード」にチェックを付けると、設定したレンジのみを強制的に表示させることができます。

周波数

登録された振動子に応じて、発射可能な周波数が表示されるので、目的にあった周波数に設定できます。一般に高い周波数は指向性が強く、魚の位置を特定したり海底地形図を作成する用途に向いています。低い周波数はエネルギーが強いため、深場を探索することができます。

特定の周波数に反応するイカや太刀魚は中間チャープに良く映る場合があります。

浅場で、ルアーやベイトフィッシュ、付け餌の有無を確認する場合は、解像度の優れた高周波チャープが最適です。深場釣りは50Khz固定をお進めします。

感度

感度が自動にセットされている場合、水底の変化が激しい場所でも常にコンピュータが判断する最適感度に自動調整されます。自動調整に設定されている場合でも、ユーザーの好みに応じて、さらに強弱を調整できます。浅場で水生植物が多い場所では、マニュアルモードの方が上手く働く場合が多いです。

カラーライン

カラーラインはボトムの最上部の色が、底質に応じて、その幅が変化することから判断することができます。ホワイトバックグラウンドのパレットが選択されている場合は、ボトム最上部の色が黄色になるようにセットすると、岩盤などのハードボトムで黄色の帯が広がり、逆にマッディーな所では黄色の帯が無くなり、セカンドカラーの赤一色になります。このように、カラーラインを調整することで、ボトムをズームしながらベイトの存在と底質を同時に見極めることが可能となります。

発信停止

2台のソナーを同じ周波数で使うと、干渉を起こす恐れがあります。この場合、メニューバーからワンタッチで発信を停めることができます。

アドバンス

ノイズの抑制や、スクロールスピード、手動モードへの切り替えをコントロールします。

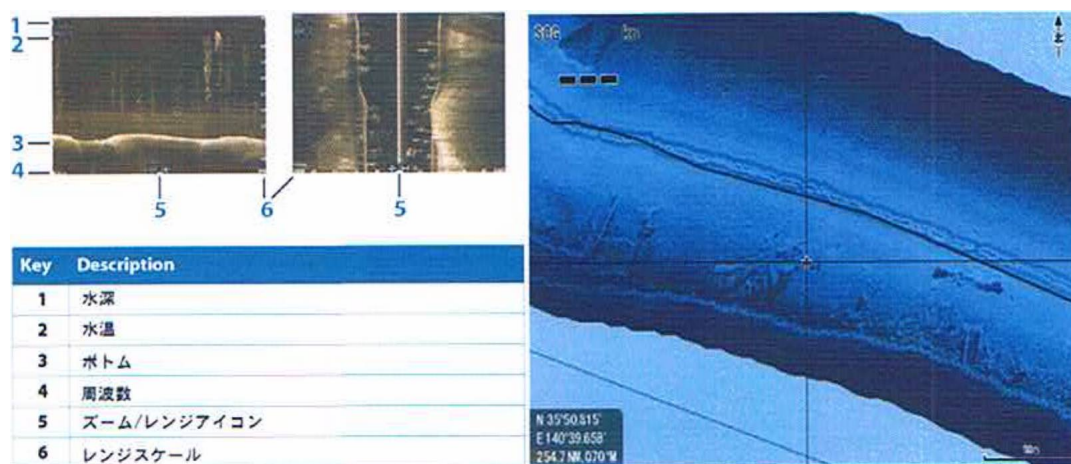
魚探画面録画

録画の目的が地形図作成である場合は、ファイルフォーマットをsigにすると、少ないメモリーサイズで広域のデータ収集ができます。サイドイメージやダウンスキャンも録画するときはS12にきり替えて下さい。浅場で800バイト、深場で1600バイトを目安にセットし、メモリーカードに録画します。なお、ストラクチャスキャン3 Dは、s13で録画されます。

ストラクチャスキャン

高周波ビームを側方と下方に発射し、数十回の発射から1本の平行ラスターを生成します。

このラスターを並べると、写真画質の水中画像が作られます。従来の魚探が一定の指向角で拡散する信号であるのに対して、ストラクチャスキャンは無限焦点の写真画像のような表現となるので、魚やストラクチャー、沈船などを正確に認識できるようになりました。



初めてのポイントでは、「アドバンス」「魚探画面録画」より、カードにs12ファイルを記録して下さい。「ファイル」の「カード」に作られたs12をストラクチャーマップ(.smf)に変換してから「表示」にタッチすると、チャート上に写真画質の水中情報が上書きされます。簡単な操作で魚やストラクチャーの位置が正確に認識できるため、ぜひ有効に活用して下さい。また、チャート画面の「オーバーレイ」で「ストラクチャー」を指定すると、リアルタイムでストラクチャーや魚の状況を表示することができます。

仕様

本体	サイズ	HDS-7 LIVE 146x234x78mm (高さx幅x奥行き) 架台含まず
		HDS-9 LIVE 167x280x78mm (高さX幅X奥行き) 架台含まず
		HDS-12 LIVE 229x348x83mm (高さX幅X奥行き) 架台含まず
		HDS-16 LIVE 259x431x88mm (高さX幅X奥行き) 架台含まず
本体	重量	HDS-7 LIVE 1040g / HDS-9 LIVE 1380g
		HDS-12 LIVE 2600g / HDS-16 LIVE 3570g
画面	サイズ	HDS-7 LIVE 対角179mm / HDS-9 LIVE 対角 229i 'mm
		HDS-12 LIVE 対角 305mm / HDS-16 LIVE 対角 406)mm
画素	数	HDS-7 LIVE 1024x600 / HDS-9 LIVE 1280x720
		HDS-12 LIVE 1280x800 / HDS-16 LIVE 1920x1080
電源		10. 8、17. 0V
平均消費電流		HDS-7 2. 4A / HDS-9 2. 9A / HDS-12 3. 6A / HDS-16 4. 9A
周波数		50//83/200Khz (魚探) 455/800Khz (サイド/ダウン)
出力		500W (RMS)
到達深度		1, 500m (振動子の種類、条件により異なります)
GPS	機能	WAAS対応16CHレシーバー内蔵、 5, 000ウェイポイント、10トレイル、200ルート
標準付属品		コの字架台、ノブ、電源コード、プロテクトカバー
アクセサリ		トータルスキャン振動子 3 in1振動子 HST-WSBL 83/200khz スキマー型振動子 PDT-UBL 83/200khz ポッド型振動子 HDI 83/200/455/800khz スキマー型振動子 HDI 50/200/455/800khz スキマー型振動子 HDI 50/200/455/800khz スルーハル振動子20度傾斜 その他、50/200Khz国産他社振動子

取り付けとアクセサリー

・準備

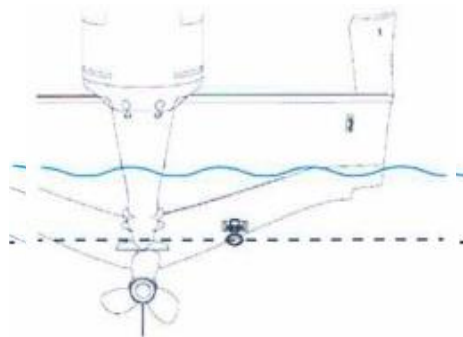
他にも取り付け方法は色々ありますが、以下の手順で設置されることをお勧めします。作業を始める前にこの章は最後まで目を通して下さい。船体に穴開け加工した後では取り返しが付かない場合もあります。

1. 本体のおよその取り付け位置を決めて下さい。トランスジューサーや電源ケーブルをどのように引き回すか、どこを通すか計画できます。
2. トランスジューサーの およその取り付け場所とケーブルの通し方を決定して下さい。
3. バッテリーの場所と他の機器との接続を決定して下さい。
4. トランスジューサーを固定してからケーブルを本体取り付け予定の位置まで 配線して下さい。
5. 本体の位置から電源まで電源ケーブルを配線して、極性をよく確認して電源に接続して下さい。(赤がプラス、黒がマイナスです)
6. コネクターを 本体背面に差し込んでから、コの字型ブラケットに セットしてください。

・トランスジューサーの取り付け

トータルスキャン振動子はプラスチックブラケットをL字型に組み立て、トランサムにビス止めします。船体中央より右側30～40センチ位の走行中最も泡の少ない場所を選定して下さい。レンタルボートで使用される場合はオプションのクランプ型振動子取り付けシャフトをご利用下さい。標準のスキマー型トランスジューサーには船尾に取り付けるためのステンレス金具が、また、オプションのエレキマウントリングにはプラスチック成型されたブラケットが付属しています。これらはキックアップ・マウントと呼ばれ、水中の障害物にヒットしたとき取り付け軸を中心に回転してダメージを最小限に抑えます。

工具無しで簡単に押し戻すことができるのも特徴です。魚探の設置に関して、トランスジューサーの取り付けが全ての性能を決定するといってもよいほど、取り付け位置は重要です。最もよい位置を選択して下さい。



参取り付けに必要な工具と部品

船体やトランサムに穴を開けてコネクターを通す場合は23mmのドリルが必要です。水温センサーやスピード水温センサーを共に通す場合は30mmのホールソーを準備して下さい。

標準スキマー型をトランサム(船尾板)に固定する場合

開口部11mmのスパナまたはモンキースパナ2丁、3.5mmドリル、大きめのマイナスドライバー
2周波トランスジューサーをトランサムに固定する場合

開口部11mmのスパナまたはモンキースパナ2丁、4mmドリル、大きめのマイナスドライバー、別途に5 x 2.5mmステンレス木ねじ4本を用意して下さい。

標準スキマー型をトロールモーターに固定する場合

開口部11mmのスパナまたはモンキースパナ2丁、4mmドリル、大きめのマイナスドライバー、別途にプラスチック結束バンド(インシュロック)

取り付ける場所の選択

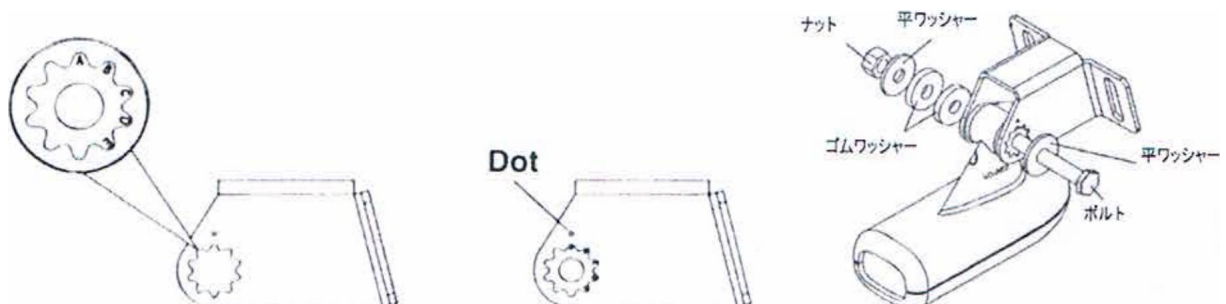
1. トランスジューサーは全ての状況においてスムーズに水が流れる場所に取り付けなければなりません。船底内側から取り付けるときはボートがあらゆる姿勢の時も取り付け位置が水面下となる必要があります。水流がスムーズでないとタービュランスノイズや泡の巻き込みで、干渉縞や無数の斑点が現れます。
2. トランスジューサー下面が可能な限り真下を向くように取り付けます。
3. 船尾に固定する場合はトレーラー積載時に牽引金具やトレーラー車体に干渉しないかよく確認して下さい。プロペラが発生するキャビテーションノイズを拾わないようにするためエンジン固定部から30センチ以内の場所もさけて下さい。
通常トランスジューサーは ボートの一番深い所に装着されます。これはプレーニング中でも水面下に置かれる必要があるのと、気泡による干渉を 減少させるためです。
4. トランスジューサーのケーブルは、できるだけ他の配線から離して下さい。エンジン周辺の配線やビルジポンプ付近にケーブルが近接すると画面上にノイズを生じます。

船底透過方式の取り付け

一般にトランスジューサーを 船底透過方式で取り付けると、到達深度が多少劣るものの超高速ですばらしい性能を発揮します。漂流物に ぶつけてダメージを与えたりドック入りやトレーラー積載時に破損する心配が無くなります。しかし、この取り付け方にもいくつかの弱点があります。まず、理想的な位置に設置された場合でも船底を透過するときの 感度ロスを生じます。同じボートでも取り付け部分の構造や材質によって 減衰の度合いが変わってきます。2番目の問題として 最良のフィッシュアーチを得るための角度調整ができなくなることです。トロールスピードと高速巡航時の姿勢変化 の大きい船体では妥協点を見つけなければなりません。満足な結果を得るためには、最初から接着剤で 固定せず、入れ歯固定材を使って 何力所か試してみることをお勧めします。理想的な動作が得られたら 取り付け面をサンドペーパーで磨いた後、シンナーで脱脂してから微位の瞬間接着剤で 仮止めします。周囲に油粘土で土手を作ってから良 時間硬化型のエポキシを40度位に暖めて流し込みます。

・トランサムへの取り付け

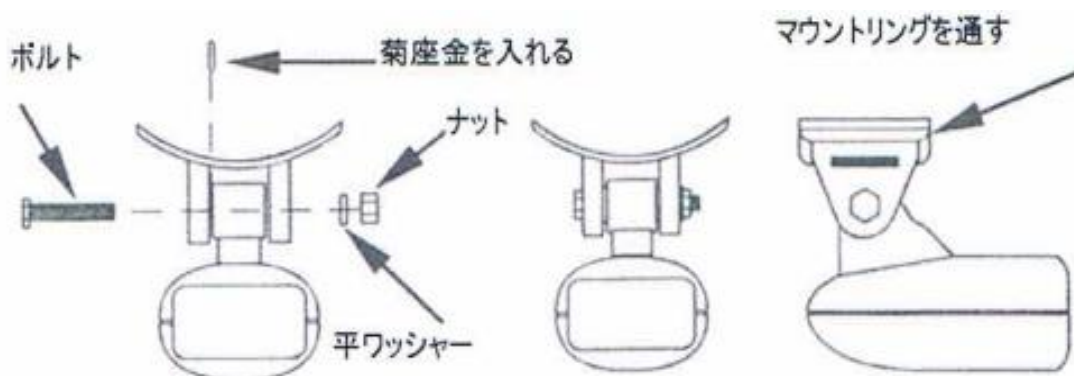
取り付け前に 部品を仮組みしてトランサムに当ててみて下さい。トランスジューサー下面が船底よりほんの少し下方に位置し水平となるように取り付け可能であることを確認して下さい。陸揚げのときのダメージを防ぐため、トランサム最深部でセンターを避けた位Eに ステンレスブラケットが水平と なるように押し当てて 穴開け位置をマーキングします。トランスジューサー下部が船底とフラットか 少しでも出る位が理想的な取り付け状態です。マーキング位置に4mmの下穴を開け、付近のビスにたつぷりとエポキシを塗布してブラケットをネジ止めして下さい。国際的にトランサムは14度の角度で設計されているので、ブラケットの打刻マークとプラスチックラチェットのAマークを合わせるとトランスジューサーを水平にセットできるはずですが、もし、水平にならないときは、Bマークや、Cマークで試して下さい。最後に取り付け図に従って2枚のゴムワッシャーと平ワッシャーを通してから ナットで締め付けます。ナットと平ワッシャーのゼロになってから、さらに90度締めて下さい。締め すぎると水中の異物にぶつかったとき、トランスジューサーを破損します。
ケーブルをしっかりクランプしておく と高速で異物にぶつけた場合でもトランスジューサーが船内に 飛び込んでくる危険を防ぐことができます。





エレキへの取り付け

オプションのトローリングモーターブラケットによってエレキの下に吊り下げることができます。図のようにプラスチック製ブラケットにトランスジューサーをボルト止めし、ステンレス製のアジャスタブルストラップを通してからマイナスドライバーでエレキに締め付けます。余分のコードがプロペラに巻き込まれないように必ず要所をインシュロックでクランプして下さい。実際に本体を作動させたとき、画面左上の水深を示す表示が点滅を繰り返している場合は、ビームが真下を向いていないことを意味するので正しく向くように再調整して下さい。無段階エレキのノイズが干渉するときはマウントリングとバッテリーのマイナス端子を范線で結線すると改善される場合があります。



参電氣的接続について

このシステムは12ボルトの直流電源で動作します。付属の5アンペアのヒューズとヒューズケースを組み立てて、赤リードをバッテリーのプラス側、黒リードをマイナス側の端子に接続して下さい。経年変化によってヒューズの金属部に酸化皮膜を生じると范流が流れにくくなります。CRCなどの潤滑剤を吹き付けて、ヒューズを数回脱着すると、改善されます。

本機では外部機器との通信に、NMEA2000を用意しています。その他に、電源コードのソケットからRS-422の通信線が出ていて、パソコンや計測機器に本器のデータを出力できます。

外部アンテナや全ての機器は接続すると、自動認識されるため、ユーザーが設定する必要はほとんどありません。データ線を使わないときはビニールテープなどで絶縁して下さい。

参本体の取り付け

バウデッキにブラケットを木ねじで固定して、盗難防止のために本体のみ持ち帰って保管するというのが一般的ですが、レンタルボートを利用される方は小型のアイスボックスにブラケットを取り付けて使用し、移動の時は本体をボックスに入れて運搬すると傷付けません。オプションのボールマウント架台を利用されると見やすい角度に調整できます。

大型ボートでダッシュボードにマウントする場合は、www.lowrance.comから機種に応じた型紙をダウンロードして下さい。ダッシュボードに型紙を貼りつけホールソーで四隅に穴を開けてから点線に沿ってジグソーで切り抜きます。やや内側を切り抜き、現物に合わせながらカッターで仕上げると上手に加工できます。全ての配線を終えて動作確認してから、本器の全面カバー外し、4本のスクリューで固定して下さい。

・船底塗料

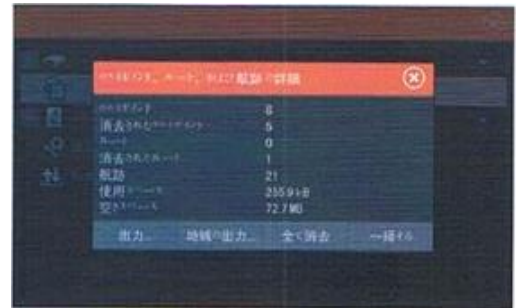
振動後はアセトンなどの有機溶剤でひび割れを起こしますので、水性塗料を使用して下さい。

データのバックアップ

登録したウェイポイント、航跡やスクリーンショットは本体のメモリーに記憶されています。本体に起動不良等の問題が発生したときは、工場出荷時の状態にハードリセットをかけると、ソフトウェアの不具合を解決できます。ところが、ハードリセットによってメモリーを初期化すると大切なデータを全て失うことになります。そこで、定期的にデータをカードに出力しておく、安心です。ページキーを押した後、「ストレージ」にタッチしてから「ウェイポイント、ルート、航跡」を選択して下さい。「出力」「エクスポート」にタッチして、メモリーカードを指定します。「OK」を押すとキーボードから名前を入力できます。最後に「決定」にタッチして下さい。

データのインポート

データを読み込むときはカード内の.usrファイルにカーソルを合わせ、「インポート」にタッチします。同様に「設定データベース」もカードに出力しておく、全ての上下きデータや設定項目を保存することができます。



タッチ感度の調整

本機はスクリーン表面と大地間の争電容Sの変化を読み取って入力を受け付けます。テーブル上のバッテリーに接続してテストするときは、全く入力を受け付けない場合があります。ポートへの設置が完了したら、タッチ感度の最適化を実行して下さい。ウェイポイントボタンを押したまま電源をオンにすると、自動感度調整モードで起動します。

ハードリセット

発電機、トロールモーター、セルモーター起動時のノイズによって、本機のファームウェアにバグが混入すると、動作が不安定になったり、起動に障害が起こります。ズームキーの+を押したままの状態電源を投入し、ズームキーはシステムが起動するまで押し続けて下さい。「日本語」を選択し、「シミュレーション」は「いいえ」を選んで下さい。質問に答える形で入力すると初期設定が完了致します。なお、ハードリセットはネットワークケーブルを外してから行って下さい。

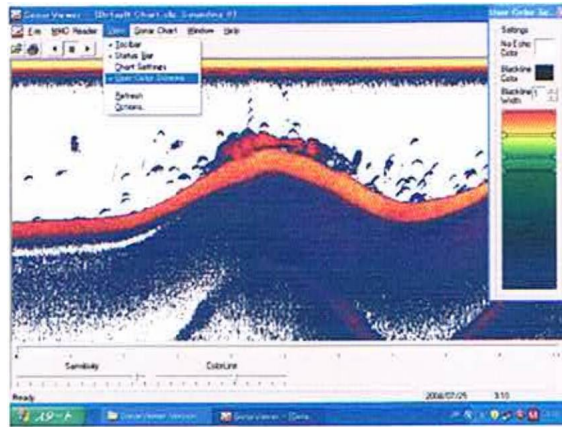
ソナービューアーによるハイテクフィッシング

通常、国産の魚探は揮発性で、どんなに苗要な画像も数秒後には消滅してしまうという致命的な欠点があります。本器では、表示した画像を位K情報と共に、全てSDカードに記憶することができるので、本体、またはパソコンで再生して、好ポイントやストラクチャーをマークしたり、ルアーのアクションと魚の反応を研究するなど、一日の釣行を振り返って、次回の作戦を練ることができます。魚探の画面を注視している時間は、多い人でも釣行時間の2~3割なので、全画像を再生すると、思いがけない場所で魚群や有望なポイントを発見することができます。

https://www.dropbox.com/s/8klcejy0xw871fv/SonarViewer_2.1.2.exe?dl=0 から

Soner Viewer 2.1.2 をダウンロードしてパソコンにインストールして下さい。カードリーダーをパソコンに接続し、録画データの入ったSDカードを挿入すると、ツールバーのアイコンをクリックして、再生、早送り、巻き戻しのほか、感度調整やカラーラインの設定もできます。好ポイントにカーソルを合わせると、緯度経度、水深、録画円時、水温などが表示されます。本体のカーソルをこのデータに合わせ、ウェイポイントを打つと、次回の釣行では有望なポイントを次々に攻略することができます。

ソナービューアーは60進表示となっているため、ソナービューアーを利用するためには緯度経度の表示方法を統一する必要があります。



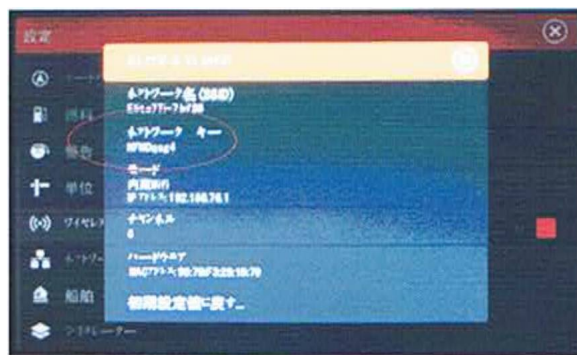
GoFree Wifi の活用

本機に表示されている画像を、スマートフォンに送信したり、タブレット端末で本機をリモートコントロールすることができます。まず、スマートフォンからアップルストアにアクセスして、LOWRANCEと入力すると、Link Connectのアプリケーションをダウンロードすることができます。スマートフォンの「設定」からWifiの選択を実行して下さい。HDS LIVEを選択すると、パスワードの入力を求められます。

HDSの「設定」から「ワイアレス」「スマホ/タブレットに接続」の順に開きWiFiをONにして下さい。8文字のパスワードが表示されます。

大文字と小文字の区別があるので、1と1 (エル) 0 (ゼロ) とO (オー) などにご注意下さい。

最大で6台のスマートフォンに送信できます。なお、「リモートコントローラー」のダイアログで「常に許可」を選択すると、毎回パスワードを入力しなくても済みます。



ブルートウースの設定

ブルートウースを内蔵するパワーポールなどを、本機の画面上からコントロールできます。

「設定」「ワイアレス」から「ブルートウース」をオンにして下さい。自動的にペアリングが行われない場合は、「ブルートウース機器」にタッチして、リストから「ペアリング済みの機器」と「その他の機器」を確認して下さい。使用したい機器が「その他の機器」に含まれる場合は、「ブルートウース機器の詳細」を選択し、「ペア」にタッチして下さい。

ストラクチャー画像の転送について

広大な湖や海洋では、どこに良いポイントが有って、どこに魚が着いているかを調べるのに多くの時間と労力を費やします。本機は、商速プロセッサと、大容量のメモリーを駆使して、ストラクチャスキャンの画像をチャート画面に転送できます。転送した画像は透明度を6由に設定できるので地図情報も有効に活用しながらストラクチャー、沈船、魚礁などをリアルタイムで表示し、ベストポイントを絞り込む新しいスタイルが、プロ、アマを問わず、今後は定着するかも知れません。チャート画面の「オーバーレイ」にストラクチャーをセットし、レンジと透明度を調整して下さい。

無料の精密等深線C-MAP・ジェネシス

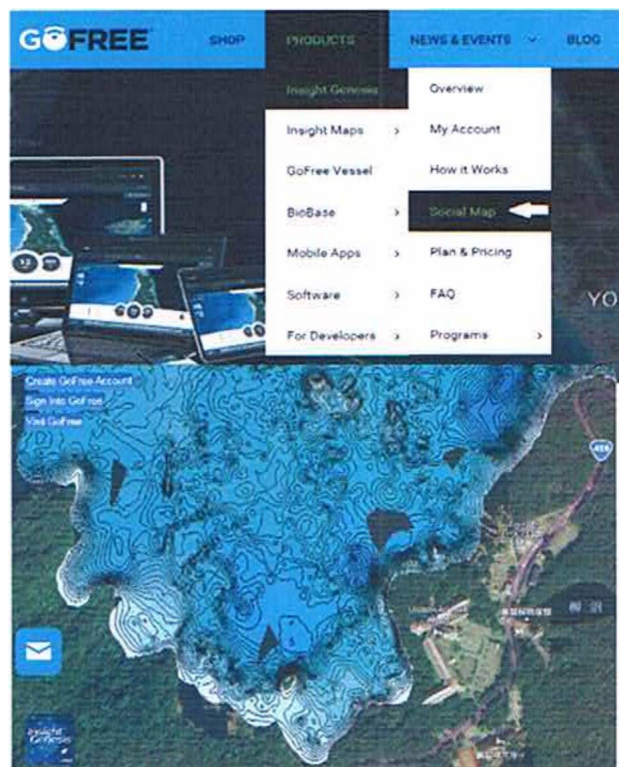
釣行前に「共用マップ」をチェック

C3IAP ジェネシスは、ソーシャルマップ <https://www.genesismaps.com/SocialMap/Index> を、開くと、現在、利用可能な「共有マップ」を確認することができます。

日本列島までドラッグしてから、ズームボタンの+マークをクリックすると、マップがアップロードされているエリアは、青丸で表示されます。カーソルが張り付くときは右クリックでドラッグして下さい。例えば、福島県の檜原湖をクリックすると、ダイアログが現れるので、Viewをクリックすれば、精密な等深線が表示されます。

「共用マップ」をダウンロードする前に

エリートTiやHDSLIVEのようにWifiを内蔵するモデルは、携帯のテザリングやWifiルーターを利用して、直接インターネットに接続できるため、パソコンが無くても現場で簡単に地図を作成したりできあがった地図や共有マップをダウンロードしてご利用頂けます。Wifiを内蔵しないモデルはSDカード(マイクロ SD)にダウンロードして、exeファイルをダブルクリックするとAT5のマップが展開されます。まずは左上のCreate GoFree Accountをクリックして、メールアドレスとパスワード(大文字、小文字、数字の組み合わせで12文字)を入力して下さい。次にLoginをクリックして、名前、国名を入録した後、「同意する」にチェックを付けてから、Sign upをクリックします。



Insight Genesis Signup

User Name (Email Address)

Password

Confirm Password

First and Last Name

Country

☒ I agree to the [Terms and Conditions](#)

Signup

C-MAP Genesis の My Account を開いて、使用されているモデルのシリアルナンバーとコンテンツIDを登録します。--のアカウントで最大で5台まで登録できます。これらのナンバーは、タッチモデルの場合、「設定」「システム」「仕様」を開くと表示されます。キーパッドモデルでは、メニューを2回押して、「システム」「仕様」を開いて下さい。この場合の「シリアルナンバー」は、本体に貼られているバーコードとは異なる場合もあるのでご注意下さい。

Plotter Information

Plotter Model	Name	CoMent Id	Aetlont
HDS Gen2 Touch	BOWJeh	3257197312	92AD2X44
LewrAAc* HDS3	供・ HOS3	3257298018	723057044

Add ○

以上で全ての設定は完了しました。Wifi内蔵モデルでは、GoFreeにログインするだけで、これらの情報が自動入力されます。

Social Map (共有マップ)のダウンロード

ゴーフリーショップのPRODUCTS - Insight Genesis - My Accountを開いてからメールアドレスとパスワードを入力してログインして下さい。

次に、List of Social Mapsをクリックして、Waterbody Nameをクリックすると、国名がアルファベット順に並んでいるので、JAPAN - FUKUSHIMAからLAKE HIBARAを見つけることができます。水滴マークをクリックしてから、



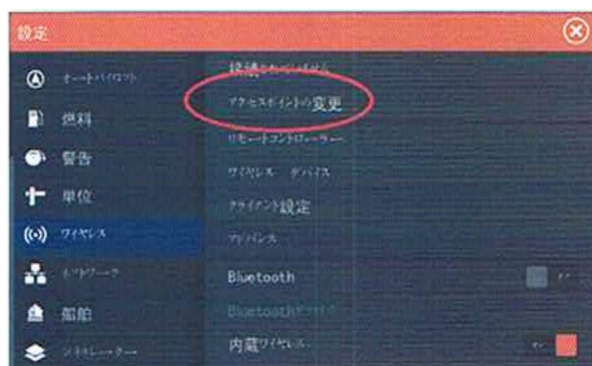
Download Map、Save Fileの順にクリックし、ダウンロードされたexeファイルを右クリックで空のSDカード(マイクロ SD)にコピーして下さい。カード内のファイルをダブルクリックするとAT5マップが展開され、このカードを本体に挿入すると詳細な等深線が表示されるようになります。共有マップを利用して良い釣りができたら、恩返しに、ぜひ、データの抜けているエリアを録画してアップデートして下さい。皆様のご協力で完璧なマップが仕上がります。



ELITE TiやHDS LIVEで 直接ダウンロード

Wifiを内蔵するモデルは携帯のテザリングやWifiルーターを利用して、直接インターネットに接続できるため、パソコンが無くても現場で簡単に地図を作成したり、ダウンロードできます。

1.メニューボタンを押してから、「設定」「ワイヤレスJ」の順にタッチして、「内蔵ワイヤレスJが「オン」になっていることを確認の上、「アクセスポイント

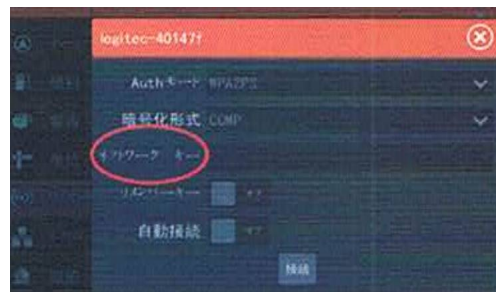


の変更」「ワイヤレスホットスポットに接続」を選択して下さい。

2. 「ワイヤレスデバイス」のリストから接続する Wifiを選択して下さい。
3. 「ネットワークキー」のウインドにタッチするとキーボードが表示されるので、パスワードを入力して下さい。なお、小文字の入力はABC,記号の入力はSYMにタッチして下さい。最後に「決定」にタッチして下さい。

4. 以上で、インターネットに接続されるので、パソコン無しで直接GoFree Shopにアクセスできます。

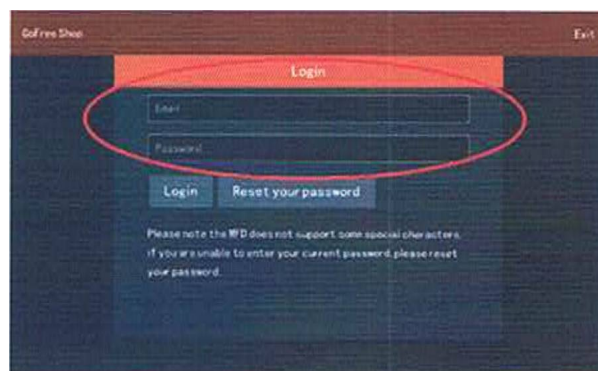
右上のメニューボタンを押してから、左側タスクバーの一番下にあるGoFreeショップにタッチして下さい。HDS/ELITETiには、あらかじめ空のメモリーカードを挿入して下さい。



5. GoFreeショップを開いて、メールアドレスとパスワードを入力後、Loginにタッチして下さい。Social Mapsにタッチすると、国、県の順にリストアップして、ご希望の水域が見つかったらDownloadにタッチして下さい。

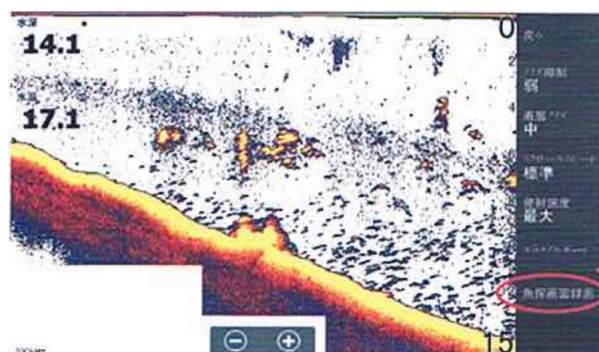


6. 「チャートデータの選択を変更しますか？」のメッセージが現れたら「はい」を選択して下さい。



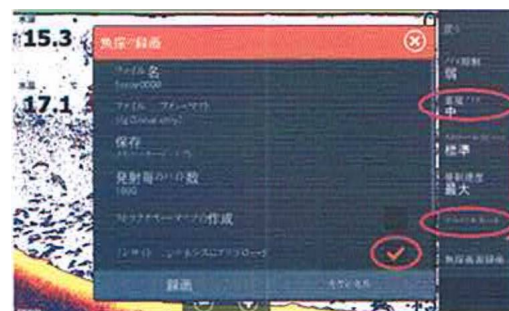
ELITE TiやHDS LIVEで 直接アップロード
GoFreeショップにログインしている状態で、ソナー画面又はストラクチャー画面より、「アドバンス」にタッチしてから、「魚探画面の録画」を選択して下さい。

「表層ノイズ」を「中」、マニュアルモード」にチェックを付けると、安定して録画ができます。
地形図の作成だけなら、s1g フォートで行うと、メモリーの消費が少ないです。ストラクチャー画像も録画 する場合はs12を選んで下さい。「アップロード」にチェックを付ければ自動的にアップロードされます。完成



した地形図は10～20分後にダウンロードしてご口頂けます。

◆水生植物の分布や底質の表示、非公開でマップを作成したい場合は、年間ライセンスをご購入下さい。税別12.000円で、ロランス取扱店でご購入頂けます。



トラブルシューティング

ロランスは特殊透過膜による完全防水仕様ですから、日本製の非防水モデルと比較すれば桁違いの信頼性を誇っています。万一、ご使用中のソナーが異常な動作をするときは以下の項目に従って自己診断を実行してみてください。

電源が入らない

1. パワーコードのコネクターがしっかり差し込まれていますか。コードとバッテリーの接続部が接触不良を起こしていませんか。
2. テスターがあればコネクターの出口で電圧を測定して下さい。デジタル回路は5Vに安定化されていますが出力部は電池の電圧が直接印可されるので11V以下では正しく動作しません。
3. エンジンの発電機内部の整流器が故障すると高圧の交流電流を発生します。再起動やノイズが多い場合は、ここに始末機器をつなぐのはきわめて危険なので別バッテリーを用意して下さい。
4. ヒューズの頭が導通不良を起こしていませんか。サンドペーパーで軽く磨いてみて下さい。

動作が途中で止まったり不安定

1. ボートのモーター、トローリングモーター、他の遊子機器からのノイズが受信回路に干渉している恐れがあるので、コード類の取り回しを変更してみたり、原因と思われる機器の線を外して、症状に変化が見られるか確認して下さい。自作の1cmマップは起動不良を起こすので、ご注意ください。
2. トランスジューサーのコードが被覆が破れたり、つぶれたり、断線していませんか。
3. トランスジューサーのコードや電源コードのコネクターが破損していないか、腐食していないか、しっかり差し込まれているか確かめて下さい。
4. カードにGPSのデータや設定データを記録した後、ズームキーの+を同時に押したまま電源を入れてみて下さい。ハードリセットにより、ソフトウェアが工場出荷時の状態に戻ります。ウェイポイントや設定は、カードから「インポート」によって復旧できます。

反射波が弱い、水深表示が点滅をする、魚影が全く映らない

1. トランスジューサー底面が水底に対して垂直、あるいはスキマー型のとがった部分が水平方向を向いているか確認して下さい。時々、誤ってスキマー先端部を上に向けて取り付けられている例が見られます。貝、苔、泥が付着していると正常な動作ができません。
2. ボートの電装品からのノイズが大きいと、本機の内部で各種の除去プログラムが起動したり感度を下げます。これによって、弱い信号や底の詳細な情報が失われることがあります。
3. オートモードの状態ですぐに深くなっている領域に進行すると、一時的に反射波が得られなくなるのでエラーと判断することがあります。(左上デジタル表示が点滅します)レンジマニュアルで、より深い設定を行うか電源を入れ直すと正常になります。
4. デジタル表示にして、動作電圧を確認して下さい。ヒューズや電源コードの接触不良が発生すると、電圧変動が大きくなります。電源が11V以下では正常な動作は望めません。

高速で探知しなくなったり動作が不安定 スクリューを回すと信号が弱くなる

1. スクリューによって生じた渦流が要因となっています。トランスジューサーの位置を変えて全ての速度で画面スクロールが自動的に追従するところに取り付けて下さい。
2. 原因が電装品の道気ノイズである場合は1台ずつ電源を切ってどの機器が発生源か特定して下さい。電源を別にしたり、トランスジューサーのコードを他の配線から離して下さい。